

招 集 期 日	平成 2 9 年 1 0 月 1 9 日 (木)		会議の場所	教育委員室
会議の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 1 3 時 3 0 分	開 会 者	教 育 長
	閉会の時刻	午後 1 4 時 3 0 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	柿 沼 拓 弥 委 員	出 席	
古市明教育長職務代理者	出 席	高 瀬 賢 一 委 員	出 席	
春 山 教 子 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説明のための出席者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	橋本教育総務課長	細村学校教育課長
	小島学校給食センター所長	岡田生涯学習課長	山木スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開会		10 月定例教育委員会を開会		
	教育長	教育委員会の会議は公開が原則であるが、人事に関する事件、その他の事件については、出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決した時は、公開しないことができる。本日の日程の中で日程第 4、教育長職務代理者の指名については人事案件のため、審議を非公開としてよろしいか。		
		異議なしの声あり		
	教育長	日程第 4 の審議は非公開とする。		
日程第 1 前回会議録の承認	教育長	9 月定例教育委員会の会議録の承認について諮った。		
		異議なしの声あり		
	教育長	前回会議録は、承認された旨宣した。		
	教育長	報告事項 1 について、学校教育部長から説明を求めた。		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第 2 報告事項 1 平成 29 年 9 月 定例市 議会提出（教育委員 会関係）議案等につ いて</p>	<p>学校教育部長</p>	<p>野中一城議員から、平成 28 年度羽生市一般会計歳入歳出決算について議案質疑があった。</p> <p>1 つ目は、小学校 I C T 活用の推進についてである。「効果・検証について」は、タブレット型パソコンを授業で活用していくことは、児童の声や教師からの報告、教職員の I C T 活用能力調査から効果があったと考えていると説明した。「今後の方針について」は、平成 29 年度は 3 校、平成 30 年度も 3 校に導入し、市内全ての小学校に無線 L A N、タブレット型パソコンが導入される予定であること、今後は研究校で積み重ねた成果をさらに発展させ、効果的な活用について市内で共有しながら、I C T 活用の推進に努めると答弁した。</p> <p>2 つ目は、学力アップ羽生塾についてである。「効果・検証について」は、児童アンケートや保護者のアンケートから学力アップ羽生塾が子ども達のやる気を向上させ、学習へ向かう姿勢を育てていると考えられること、平成 28 年度の参加者について、埼玉県学力・学習状況調査結果を基に「学力の伸び」の追跡調査を行ったところ、どの学年も県平均の伸びよりも、大きく伸びていることが分かり、学力アップに繋がったことを説明した。「今後の方針について」は、今後も事業を継続し、羽生市の子ども達のさらなる学力の向上を図っていくと答弁した。</p> <p>斉藤隆議員から、学校の教職員の勤務状況の改善についての一般質問があった。「教職員の勤務実態の掌握の実施と継続」については、平成 28 年 7 月 5 日に通知分を各学校長に送付し、在校時間記録簿への記入を行い、管理職が教職員の在校時間を適切に把握するよう指導したこと、11 月以降は、月ごとに各学校の状況を羽生市教育委員会に報告することとし、現在も継続中であることを説明した。「教職員の勤務実態におけるアンケート調査の実施」については、県の動向を踏まえながら、アンケート実施に向けて検討を進めていきたいと考えており、アンケートを実施すること自体が教職員の負担とならないよう配慮し、羽生市校長研究協議会、校務負担軽減検討委員会と連携して意味のある調査となるよう、十分検討した上で実施したいと説明した。「メンタルヘルス研修会への参加状</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>況」については、毎年、夏季休業中に、県教育委員会主催で管理職対象の「メンタルヘルス研修会」及び、教職員対象の「こころの健康講座」が開催されており、平成 29 年度のメンタルヘルス研修会では 14 名の管理職が、「こころの健康講座」では 24 名の教職員が参加したことを説明した。「平成 28 年度におけるストレスチェックの実施時期及び平成 29 年度の実施状況」については、平成 28 年度は、12 月に全教職員を対象に実施し、平成 29 年 2 月に結果を配布したこと、平成 29 年度も同様に実施する予定であることを説明した。「学校長によるストレスチェック制度の実施責任方針の決定」については、市内の全小・中学校が労働者数 50 人未満であるため、ストレスチェックの実施については努力義務となっているが、教職員が自身の健康状態を把握することは重要であると捉えており、平成 28 年度は学校長による実施責任方針の策定は行わず、羽生市教育委員会の判断で実施した。平成 29 年度は実施責任方針を策定し、ストレスチェックを実施したいと考えていると説明した。「校内衛生委員等によるストレスチェック制度の実施計画の策定及び実施管理の状況」については、市内全小・中学校では、衛生推進者が選任されているが、ストレスチェック制度の業務を中心としていないため、校務負担を増加させないよう、当面の間は羽生市教育委員会の主導のもとに実施していくのがよいと考えていると説明した。「各学校の教職員への周知徹底」及び「ストレスチェック制度の趣旨や目的・活用の在り方などの理解が得られるための取組み」については、制度の導入にあたり校長研究協議会で趣旨や目的・活用の在り方について説明を行い、各学校の教職員には、校長を通して周知徹底を行ったこと、平成 28 年度は全教職員からストレスチェックシートの提出があったので、制度について理解を得られていると考えていると説明した。「医師や保健師などの実施者から教職員への申し出の勧奨」及び教職員から学校長への「面接指導の申し出の状況」については、実施者から直接、申し出の勧奨は行っていないが、ストレスの程度や面接指導が必要か否かは、各個人への結果通知に明確に示されていること、平成 28 年度は、面接指導の申し出をする教職員はいなかったことを説明した。「ストレスチェック実施の一連の流れ」については、羽生市教育委員会から、学校をとおして教職員にストレスチェックシートの配布を行い、封をした状態で回収し、結果についても、</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 高校生インストラクター講座「秋の素材を使ったクリスマスリース作り」の開催について</p>	<p>教育長</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>学校をとおして配付すること、各学校においては、校長より面談をしながら手渡しをしていること、平成28年度は、市内教職員全体の集団分析を行い、今後は学校ごとに集団分析を行う予定であると説明した。</p> <p>この他に、中島直樹議員から公共施設の統廃合についての一般質問があり、企画財務部長が答弁したが、学校の統廃合について再質問があり、これについては教育長が答弁した。小学校の統廃合についての見解としては、公民館と同様に地域コミュニティの核となっている小学校は、現時点で統廃合を行うことは難しいと考えている。児童数が少ない学校は、小規模校なりの特色のある教育を展開しており、コミュニティスクールの取組みにより、地域の連携がより進んでいる。まずは老朽化の状況を勘案しつつ、プール施設の共用化等の検討実施を進めていきたいと考えていると答弁した。</p> <p>また、峯寄貴生議員から防犯対策と市民意識の向上について一般質問があり、総務部長が答弁したが、自治会等の地域の方々にメール配信ができないかという再質問があった。既に何校かで自治会長や学校応援団、民生児童委員等にメール配信サービスの登録を呼びかけているという実態を説明し、今後はその他の各学校についても地域の方々の登録について働きかけるよう依頼していくと答弁した。</p> <p>報告事項2から4について、生涯学習課長から説明を求めた。</p> <p>12月16日に、羽生実業高校のフラワーデザイン室にて開催する。羽生実業高校園芸科の生徒3名が講師を務め、参加対象者は、羽生市内に在住、在勤、在学の小学生以上、募集人数は15名であり、参加費1,000円を徴収する。広報はにゅう11月号に掲載し、申し込みは電話にて先着順に受け付ける。この講座は2回目であり、平成28年度の実施が好評であったため、今年度も同じ内容で実施する。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項3 高校生インストラクター講座「みんなのパソコン教室」の結果について</p>	生涯学習課長	<p>9月9日に、羽生実業高校のコンピューター室で開催した。講師は羽生実業高校のコンピューター部部員、講座内容はパソコンを使いオリジナルのカレンダー・年賀状づくりを行った。参加者数は17名、小学生から70代まで幅広い年代の参加があった。アンケートによると、受講生の満足度は全体的に高く、来年の開催を望む声が多くあった。講師となった高校生は、受講生に積極的に声をかけ、テキストに載っていない技術を聞かれることもあったが、臨機応変に対応していた。後日、高校生たちと本講座を振り返る時間を設け、彼らの地域参画に対する理解を深めていきたい。</p>
<p>報告事項4 第20回羽生市吹奏楽フェスティバルの結果について</p>	生涯学習課長	<p>10月1日に、羽生市産業文化ホール大ホールにて開催した。入場料は無料とし、出演者を含めた入場者数は1,363名であった。市内の中学校3校、市内の県立高校2校を含む13団体が出場した。東京アカデミック管弦楽団団長の紹介により、原田照久氏に講評をいただいた。昨年より多くの一般来場者があり、出場団体も昨年度より2団体増えた。各団体の指導者及び出場者が協力して運営し、合同演奏の機会もあることから団体間の貴重な交流の場となっており、お互いのレベル向上にも繋がっていると思われる。今後の課題としては、事前の打ち合わせに参加できない団体が多く、当日の進行に手間取る場面も見受けられたため、より綿密な調整が必要と考えている。</p>
	教育長	<p>報告事項5から7について、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項5 第35回羽生市教育長杯争奪中学野球大会の結果について</p>	スポーツ振興課長	<p>9月9日、10日の2日間で、羽生中央公園野球場にて開催した。市内3中学校に加え、県内の強豪チームを招待し、計8チームが参加した。試合結果は、さいたま市立大谷場中学校が3連覇となり優勝、準優勝は羽生市立東中学校、第3位は加須市立大利根中学校及び羽生市立西中学校となった。また、個人賞として最優秀選手賞、優秀選手賞及び敢闘賞を授与した。市外5チームの参加</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項6 平成29年度ニュース スポーツ出前教室の開 催について</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>により、全試合において熱戦が繰り広げられ、特に決勝戦の大谷場中学校と東中学校の対戦では、7回で決着がつかず延長戦を行い、見応えのある試合となった。</p> <p>11月3日から12月17日までの期間で、市内9地区で開催する。スポーツ推進委員が各地区に出向き、ニュースポーツの指導等を行う教室であり、羽生地区のみ2回、計10回実施する。ムジナもん体操の他、スポーツ推進委員会が考案したパスラグビーの紹介、体験を行う予定である。また、今年度も健康づくり推進課の協力を得て、羽生市健康チャレンジ指定事業の一環として、健康に関する講話を行う。</p>
<p>報告事項7 第33回羽生市綱引選 手権大会の開催につ いて</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>12月10日に、羽生市体育館メインアリーナにて開催する。チーム編成は、中学生以上の一般男子の部、一般女子の部及び小学生の部とする。平成28年度は43チーム470名の参加があった。表彰については、上位3位チームの他、敢闘賞、ねばり賞、監督賞、ファッション賞などの各賞を用意し、大会を盛り上げる。</p>
<p>報告事項8 ふるさと講座Ⅰ「古 文書から読む地方 史」の結果について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項8について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項8 ふるさと講座Ⅰ「古 文書から読む地方 史」の結果について</p>	<p>図書館長兼郷土資料館長</p>	<p>9月2日に、羽生市立図書館視聴覚室にて開催した。羽生市文化財保護審議委員の坂田英昭氏を講師とし、22名の受講があった。講座の内容は、羽生市手子林の文殊院所蔵の「什具書上帳」を使用し、前半は各個人で読み解き、後半はグループで確認、検討を行った。古文書を読むことで、地域にある寺の歴史を学ぶことにより地域の時代背景を知ることができた。また、郷土の歴史や文化を後世に伝えていくために、今後も郷土の資料を使用して歴史を学ぶ講座を開催していきたい。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	報告事項に関して質問・意見を求めた。
	古市委員	高校生インストラクター講座のパソコン教室については、初歩的なパソコンの技術を教えているが、レベルを上げた講座もあると良いと思った。社会人になってからは、社内研修により企業の中だけで通用するノウハウは身につくが、社外では通用しない。今後は、社会人がスキルアップできる研修の場を、生涯教育において展開していく必要が生じてくるのではないかと思う。
	生涯学習課長	この講座は、講師となる高校生の持っている知識を地域の方に還元するものである。古市委員から意見があった、社会人の転職等の際に役立つパソコンの技術を習得できる講座については、市の商工部門と協力して進められるかもしれないので、相談していきたいと思う。
	春山委員	市議会の議案質疑においての、学力アップ羽生塾に関する答弁の報告について、事業の実施効果があり、どの学年についても県平均より学力が大きく伸びていることは大変良かったと思う。これを中学生に繋げていくことについては、どのように考えているか。
	学校教育部長	中学校で成果をあげるためには、小学校の学力の底上げが必要であると考えます。まず、そのことをしっかりやっていきたい。
	春山委員	現在、学力アップ羽生塾に参加している児童は、保護者が送り迎えできる範囲の子ども達であり、小学生の学力全体の底上げを図るには、児童が歩いて通えるところに学習の場があることが理想であると思う。開催場所を複数に増やしていくことが3年目となる次年度からの課題であると思う。これは所管する学校教育課だけでなく、教育委員会全体として取り組む必要があり、他の機関との協力も大切であると思う。地域と学校と家庭との連携は、以前から言われてきた。今後は、市の内部連携も進め、子ども達が身近なところで学力の補充ができ、居場所もできるよう、方策を考えていければ良いと思う。

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>より多くの子ども達を通いやすく、学力アップに向けて取り組める状況を作っていくことは、必要であると思っている。学力アップ羽生塾の主旨を考えると、事業主体は学校教育課であるが、公平に教育を受ける機会を設けることや教育の貧困対策等とどう繋げていくか、他部門とどのように連携していくかを検討したい。</p>
	古市委員	<p>学力アップ羽生塾の趣旨である、子ども達の学力の底上げを図ることについて、実施会場が少ない中、学習の手助けをしてあげたい子ども達に来てもらうためには、春山委員の言うように、福祉、子育ての部局に声をかけることも必要であると考え。もう一つの考え方として、学習の場の間口を広げることではできないか。小学校の低学年であれば、大学生や地域の方でも教えることができるのではないか。テストの丸付けなどは教育の経験がなくてもできる。市内各所にそのような小さな学習塾があり、間口を広くすれば、保護者も子どもを通わせやすいのではないかと思う。学力アップ羽生塾には素晴らしい先生方が集まっているが、多くの負担がかかっている。正念場だと思うので、慎重に意見を交わしながら今後の事を考えていっていただきたい。</p>
	教育長	<p>学力アップ羽生塾の現状は、会場が1ヶ所であり、保護者の送り迎えが可能な子どもが多く参加している。実施1年目を終え、成果があったので、今年度は昨年の2.5倍となる85名もの参加があり、嬉しい悲鳴があがっている。これをさらに進めるには会場を増やす必要があると感じている。春山委員の意見のとおり、生涯学習課の協力も得て、公民館で実施すること等も検討したい。学力アップ羽生塾で講師陣を務めていただいたNPO法人子育てサポートネットキャロットの方々の経験を活かしながら、門戸を広げる方法を模索する時期に来ていると思っている。公正公平でありつつ、学力を向上させたい子ども達に参加してもらうため、校長等に協力を仰ぎながら、より良い学力向上の施策を実現していきたい。</p>
	春山委員	<p>学力向上は学校の課題であるが、学力アップ羽生塾は学校以外の場所で始まった。そう考えると地域の力を借りることもできるということである。その地域に住んでいる、元教師など、手伝っ</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>てくれる方はまだいるのではないか。地域ぐるみで子どもを育てることは、地域力を上げることにも関わってくると考える。コミュニティ・スクールは、学校運営に地域の人達が関わるということであるが、学校の課題を地域の課題と捉え、地域力をあげて、子どもを育てていければ良いのではないかと思う。</p> <p>平成 30 年度までに市内全小学校を羽生市コミュニティ・スクールに指定する予定である。そこに着目し、地域力を活かして地域版の学力アップ羽生塾ができればよいという声が、各校の P T A 会長達からもあがってきている。また、ある学校では、地域在住の元教師を招いて勉強を教えるという取組も行っているため、そのようなことも市内に広げていければ良いと思う。</p>
	高瀬委員	<p>学校の教職員の勤務状況の改善についての市議会一般質問について、教職員の勤務実態におけるアンケート調査は、実施に向けて検討を進めて行くとのことだが、現時点ではいつ頃を考えているか。</p>
	学校教育部長	<p>期日については未定であるが、できれば今年度中に実施したいと考えている。調査の雛形として、県内でも教職員のメンタルヘルス、勤務実態把握について特に力を入れて取り組んでいる伊奈町のものを取り寄せたりして研究しているところである。今後、校務負担軽減委員会等にアンケートの内容や量について諮り、それ自体が負担になってしまうことのないよう、検討していきたい。</p>
	柿沼委員	<p>羽生市吹奏楽フェスティバルについて、知り合いの高校生のお子さんが参加したので、意見を聞いたところ、進行に上手くいかないところがあったようである。また、私立高校の演奏がすごかったとのことだった。その他、合同演奏は、各団体がその場で合わせたので、少々音が揃わないところがあったが、面白かったそうである。昨年度より 2 団体増えたので、今後も規模を大きくして、羽生市の文化として育てていただきたい。</p>
	生涯学習課長	<p>合同演奏は星野源の「恋」という曲を演奏したが、羽生市の中学校 3 校では、東京アカデミック管弦楽団の方に指導を受けるこ</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 議案第41号 羽生市立学校職員服 務規程の一部を改正 する規程</p>	古市委員	<p>とができる「マスタークリニック」において事前に練習しており、3校での合同演奏は、とても上手であった。吹奏楽フェスティバル、マスタークリニック共に、来年以降も是非、継続していきたい。</p> <p>マスタークリニックも中学校だけでなく、一般市民や市外の方も受けられると良いのではと思う。吹奏楽フェスティバルとマスタークリニックとを両翼として、羽生市の音楽の発展に繋げていければ良いと思う。</p>
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>議案第41号について学校教育課長から説明を求めた。</p>
	学校教育課長	<p>埼玉県、「職員の育児休業等に関する条例」、「職員の育児休業等に関する規則」及び「学校職員服務規程」の一部改正を受け、当規程の一部改正するものである。改正内容は、非常勤職員の育児休業取得要件に関し、育児休業に関わる子が1歳6カ月に達した時点で特に必要と認められる場合、当該の子が2歳に達するまで、育児休業の取得を可能とし、育児休業承認請求書の様式中の文言を改めるものである。対象となる非常勤職員は、在職期間が1年以上であり、週3日以上、または年間121日以上勤務する者である。</p>
	教育長	<p>議案第41号について、意見・質問を求めた。</p> <p>特になし</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第4 教育長職務代理者の 指名について</p>	教育長	<p>議案第41号については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>議案第41号は、可決された旨宣した。</p>
	教育長	<p>日程第4については会議を非公開とするため、執行部の教育総務課長以外の退室を求める。</p> <p>執行部 退室</p>
	教育長	<p>教育長職務代理者の指名について、事務局の説明を求める。</p>
	教育総務課長	<p>古市委員においては、本日もって教育委員としての任期が満了する。それにより、教育長職務代理者が欠員となるため、地方教育行政組織及び運営に関する法律、第13条第2項の規定に基づき、次の教育長職務代理者について、教育長から指名を願う。</p>
	教育長	<p>残る教育委員で最も長く委員を勤めている春山委員を教育長職務代理者として指名する。意見があれば伺いたい。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	<p>これより会議を公開とする。執行部の入室を許可する。</p> <p>執行部 入室</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	教育長職務代理者の指名の結果について、教育総務課長から報告を求める。
	教育総務課長	教育長職務代理者については、春山委員が指名された。このことにより、古市委員の教育長職務代理者の任が解かれた。
	教育長	古市委員から、退任のあいさつをお願いします。
	古市委員	6年7ヶ月間、教育委員会の会議を楽しみに務めてこられた。皆様のご協力に、本当に感謝している。現在、世間では社会保障という言葉が盛んに言われている。今までは社会保障というと、医療、介護、福祉であったが、ここに来て、子育てに関すること、少子化対策や就学前の幼児教育、高校の無償化などが話題になっている。教育委員会とすると、小中学校の義務教育が主な対象であったが、これからは就学前や高校生以上についても対応しなくてはいけないご時世になってきたと感じている。今、社会は加速度的に変化している。行政では、計画や予算の見直しは頻繁に行えないが、現場の人達の個々の感覚だけは、社会のスピード感に乗り遅れてはいけないという意識を持ち、今後の業務の遂行にあたっていただきたいと思います。長い間お世話になり、ありがとうございました。
	教育長	次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。
	教育総務課長	11月定例教育委員会は、11月13日 午後12時30分より学校給食センターにて開催する。
	教育長	閉会を宣した。

会議事件名	て ん 末	
		<p>教育長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p>